

圭陵會々報

2018
1
月号
第358号

発行所／岩手医科大学圭陵会 〒020-8505 盛岡市内丸19-1 TEL 019-651-5111 FAX 019-624-8380 E-mail info@keiryokai.gr.jp URL http://www.keiryokai.gr.jp
題字／三田定則 先生書 発行人／齋藤和好 編集人／前沢千早 印刷所／山口北州印刷

目次	新年のご挨拶 圭陵会会長……………	2	圭陵会本部・支部だより……………	11	「男女共学事始」……………	24
	理事長 小川 彰……………	3	医学部同窓会だより……………	16	厚生労働大臣最優秀賞受賞……………	27
	学 長 祖父江憲治……………	4	新年のご挨拶 会長 赤坂俊英		書籍紹介「誠をつなぐ」……………	28
	定年退職される教授のご紹介……………	5	歯学部同窓会だより……………	20	医大祭、東医体全歯体等報告……………	31
	教授就任のご挨拶……………	6	新年のご挨拶 会長 城 茂治		「在学生との懇親会」開催……………	33
	学術振興会・学生支援事業公示……………	8	薬学部同窓会局だより……………	21	お祝い・ご逝去・人事・編集後記……………	34



一座建立「碑文解説」(『八十年史』掲載)

大事業の成るに当たっては、一個人の力では誠に微々たるものであり、多くの人力と物力とさらには天機という幸運がなければできない。即ち建物を建てるには、設計した人、施工する人はもとより資材を運ぶ人、指導する人、地ならしをする人や財政的、精神的援助をした人に至るまでそれぞれの役割をする人の協力が必要である。

矢巾キャンパス、大堀勉第7代理事長・学長揮毫の「一座建立碑」、ヒポクラテスの樹 (平成 29 年 10 月 28 日撮影)



新年のご挨拶

圭陵会会長 齋藤和好

新年おめでとうございます。

月日の経つのは早いもので、小生当圭陵会会長を仰せつかりましてから、早くも1年が過ぎてしまいました。

御存知の如く、昨年4月に我が母校・岩手医科大学の創立120周年記念式典が盛大に執り行われました。小川理事長先生より「岩手医科大学の歴史～医療の貧困との壮絶な戦い・地方が故の苦悩と歩み～」との題名のもとに、本学の建学精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」とのすばらしい講演をいただきました。加えて本学管弦楽団のステージ上での迫力ある生演奏にて、校歌を参加者全員にて歌い、すばらしい余韻を残して終了したことが今でもはっきりと思い出されます。

我が岩手医科大学は、医・歯・薬学部新たに看護学部をも加えて、名実共に4学部を有する医療総合大学として2019年矢巾キャンパスの附属病院の移転開業をめざして整備事業が進行中であります。

120周年を期に続々と発刊された「創立120周年記念誌」、「誠をつなぐ、岩手医科大学さきがけの奇跡、榊悟著」等に目を通しますと「岩手医科大学概要、2017」が非常にわかり易くなるようです。さらに、岩手医専第1期生が昭和7年3月大同団結を誓い合い、①心のふるさと、②学校の向上発展、③財政を強固にする等の3点を目標に、「圭陵会」という同窓会名が正式に決定した…（「岩手医大圭陵会50年史」）という感動的な記事を読むと、岩手医大の向上発展の源は上記3点に集約されそうです。

私共も昔の大先輩の「会」創立時の御苦勞を偲び、愛校心を胸に「医療人たる前に、誠の人間たるべく」大学の向上発展を目ざして頑張りましょう。全学生諸君には、特に入学時の大志を卒業時までにはしっかりと維持させ、完成させる努力をすることを第一目標に努力して欲しいと願っております。

圭陵会員の皆様方の物心両面に渉る力強いご指導・ご支援を切にお願い申し上げます。

お疲れの時は、校歌（CD）を聞きながら岩手医科大学の発展向上を想うのもいかがですか！



新年のご挨拶

学校法人岩手医科大学 理事長 小川 彰

圭陵会の皆様には、ご健勝で、ご家族おそろいで新年を迎えられましたこと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年、本学は120周年の節目の年を迎え記念式典を挙るとともに、創立以来の先人のご努力の歴史を改めて再確認することができました。（記念式においてご披露した本学の沿革は大学ホームページに動画で公開しておりますので、お時間を作ってご覧いただければ幸いです。）現在、医学部を有する私立大学は、全国に31校ありますが、明治30年来の歴史ある学校は東京慈恵会医科大学と本学のみです。この様に本学は私立の医学部を有する大学で2校目、地方では唯一の大学であり、地方にありながら長き歴史を刻んで来ました。これにはその時代時代に先人の大変な御苦労があったものと思います。同窓会、後輩としてはこの様な素晴らしい歴史に大いに誇りを感じて良いと思います。本学の卒業生である私共は誇りある本学の歴史と伝統を120周年の節目を機に再確認し後輩に伝えて行く任を持った事を再認識してゆかなければなりません。

また、明治30年岩手医学講習所開設と同時に併設した看護婦養成所・産婆学校が近代の看護師養成機関としては全国6番目、地方においては初めての施設であった事も明らかとなりました。120年前の本学創立当初、「医師のみで

は医療は成り立たない。看護師などコ・メディカルの力なくして医療は成り立たない。」との考えから併設したものと思います。本学創立に当たっての三田俊次郎先生の強い思いがあったものと思います。

奇しくも、120周年の年に創立の理念であったチーム医療の根幹である看護学部設置が実現しました。そして、医歯薬看護4学部を有する医系の総合大学になりました。中でも誇れることは、4学部が同一キャンパスにあり建物を共有し、将来チーム医療の核となる医師・歯科医師・薬剤師・看護師として共に医療の現場で働く事になる学生が、共に顔の見える環境で学ぶ事が出来ることです。この様な環境を提供している大学は唯一本学のみです。学生諸君にはこの恵まれた勉学の環境を大いに活用して、有能な医療人に育ってほしいと思っています。

また、新附属病院の建築も予定通り進んでおります。来年の秋頃にはほぼ外観は完成します。その後内装工事に入り、医療機器類も設置され、平成31年9月開院の予定です。来年には新幹線の車窓から、新附属病院の雄姿をご覧いただけたと思います。機会があれば是非ご覧いただきたいと思っています。



新年、おめでとうございます

岩手医科大学 学長 祖父江 憲 治

明けましておめでとうございます。圭陵会の先生方におかれましては、御健勝に新たな年を迎えられお慶び申し上げます。

昨年は本学創立120年の節目にあたり、記念式典と祝賀会に多数の圭陵会の先生方の御来駕を仰ぎ、盛大な式典を挙行することができました。衷心、感謝申し上げます。建学時から今日に至る苦節120年の歴史を刻み繋いできた本学ですが、1万人に及ぶ圭陵会の諸先輩、先生方の熱い気持ちと御協力に支えられて今日に至りました。先人、圭陵会の先生方、さらに教職員の皆様方の血と汗と涙の結晶である本学は、日本のみならず世界に向け情報を発信する大学として、今後とも努力してまいります。

総合移転整備計画の当面の最終章であります、矢巾新病院と内丸メディカルセンター建設のうち、1千床規模の矢巾新病院に関しましては、昨春より建築工事が開始され、基盤整備が完了してよいよ世界屈指の大病院が偉容を見せ始めました。平成31年秋に開院を予定しております。矢巾新病院開院に続いて、内丸メディカルセンターの新改築を行う予定としております。現在、矢巾新病院の開院と内丸の現病院移転に向け、学内をはじめ周辺医師会および関連病院との調整、今後に向けた病診・病病連携による患者さんを中心とした効率的な地域医療のさらなる推進と、矢巾新病院を中核とした高度先進医療拠点として、岩手県のみならず北東北・東北の医療に貢献してまいります。

また、昨年は本学にとって長年の悲願でありました看護学部が新設され、医・歯・薬・看の4学部から成る新たな医療系総合大学として再スタートしました。4学部が同一キャンパスで学部間の壁のない教育環境の下、学生諸君は連携教育を受けチーム医療の根幹を涵養しています。学生時代からチーム医療を中心とした繋がりを造ることは、学生諸君の将来にとって至玉の賜物となることと期待しております。

矢巾新病院の建設、これに続く内丸メディカルセンターの新改築と、大きな器造りはすでに開始しております。次に重要なのは、この大きな器の中で、医師・歯科医師・薬剤師・看護師などより多くの医療人を育て、本学から岩手県のみならず、北東北・東北さらに日本全国に輩出していくことです。同時に、魅力ある岩手医科大学を発信して、全国から若手医療人を本学に集め育成することも重要です。また、本学が今後に向けて取り組まねばならぬ重要な課題に、基礎と臨床分野の連携による医療イノベーションの新興があります。医療イノベーションにより、本学は大きく変貌するものと期待されます。

岩手医科大学の教職員が一丸となり、本学のさらなる発展に努力してまいり所存です。圭陵会の先生方におかれましては、今後とも御教示と御支援賜りますようお願い申し上げます。